

世界で2番目に古い現役灯台13世紀の薪の煤が天井に残る

フックヘッド灯台 (アイルランド)

堂々たる姿の灯台である。

今から800年前、13世紀前葉に建てられた灯台だ。その頃の日本は……鎌倉時代か。鎌倉の大仏を想像で重ね合わせてみた。大仏の高さが約11㍍に対し、灯台の高さは約35㍍。大仏さまが立ち上がっても灯台の方が高いだろうか。

しかし、建築された当時の塔高は18㍍で、灯ろう（レンズの入っているランタン部分）もなく、塔の上で火を燃やして明かりとしていた。その後、塔を覆うように外壁を造り、ひと周り大きく拡張した。そのため、内部には13世紀に建てられたオリジナル部分がほぼ無傷で残っている。

大人8ユーロ（1000円弱）を支払うとガイド付きで見学が可能。遊園地のアトラクションのように映像が投影され、中世の騎士がしゃべり

だすなど、子どもでも楽しめる工夫がされていた。内壁は石灰岩が積み上げられ、石は不ぞろいながらも隙間なく組み合わさっており、建てた人々の息遣いが伝わってくる。当時、灯台守の役割を担っていたのは修道士たちだ。祈りを捧げる礼拝堂や、食事をとる生活空間も残り、石積みの丸天井は薪を焚いた煤で黒くなっていた。

この灯台は世界で2番目に古い現役灯台と言われる。では最も古い現役灯台はどこかという、1世紀の終わりにローマ人が建てたスペインのヘラクレス灯台だ。2000年の歴史の中で、灯台の機能を失い、見張り台として使われていたこともあったが、18世紀に改修され、灯台としての息を吹き返している。歴史的な灯台は文字や資料だけでは伝えきれない当時の時空間を感じさせてくれる。

(つづく)

